

戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.15

(2015年2月17日号)

〒101-0063東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■ガイドライン改定・戦争関連法制定反対！ 1.29 院内集会

1月29日夜、「ガイドライン改定・戦争関連法制定反対！総がかりで安倍政権の暴走を止めよう！1.29院内集会」が衆議院第一議員会館で行われ、市民ら約150人が参加しました。

この集会は、「戦争させない1000人委員会」呼びかけ人で昨年10月31日に逝去された本島等さん（元長崎市長）と、11月28日に逝去された菅原文太さん（農業生産法人代表・俳優）を偲び、本島さん・菅原さんとの交流が

深かった、戦争をさせない1000人委員会呼びかけ人の鎌田慧さん（ルポライター）、同じく呼びかけ人の佐高信さん（評論家）、長崎・平和活動支援センターの平野伸人さんらが故人との思い出を語り、亡くなった2人の平和への思いを引き継いでたたかう決意を述べました。



参加者は本島等さんと菅原文太さんを偲んだ（衆議院第一議員会館）

鎌田慧さん 本島さんはクリスチャンだったが、ざっくばらんで誰でもすぐに友達になる人だった。庶民的立場を貫き、いつも市民と一体となって言論を徹底的に守る立場だった。

菅原さんとは何度か対談したが、いつも僕の本を積み上げて「今日は何を聞くんだい」と大学ノートにメモを取っていた。この人はすごく勉強している人だと思った。安倍政権は虚構の政治で、今は平和と逆コースだ。ブレーキがなく歯止めをかけられない。日本は論理が成立しない社会になってしまった。これからは普通の市民が集まり、根を張って戦争をさせない運動をすることが重要だ。



佐高信さん

佐高信さん 本島さんの追悼文を共同通信から依頼されて書いた。長崎新聞にも載ったが、早速長崎の正氣塾というまさに本島さんを撃った右翼団体から抗議文が来た。本島さんは信念を貫き、銃撃事件後も天皇の戦争責任発言を取り下げなかった。

菅原文太さんの言葉はポツリポツリと短くてゆっくりだが、聞く人の胸を打ち心に届く言葉だ。こんな日本でいいのかと言いつけた人だ。仙台一高時代は新聞部で、一年後輩に作家の井上ひさしがいる。さすが高校時代は新聞部に入っていた文太さんの行き届いた文章には感嘆した。以前、大河ドラマ「獅子の時代」で、文太さんは会津の平沼銑次役を演じたが、自由民権運動に身を投ずる平沼に文太さんは、はまり役だった。

平野伸人さん（長崎・平和活動支援センター） 私は本島さんが市長を辞めてからの活動の盟友だった。本島さんは92歳で亡くなる直前まで、先頭に立って平和・反核運動に邁進した。1000人委員会では、最後の情熱を振り絞って頑張っていきたいと語っていた矢先の訃報で残念でならない。本島さんは長崎の市長だったので反核のことはもちろん訴えたが、原爆や核兵器の前に戦争があり、戦争をなくさなければ反核を世界に訴えても通用しないというのが、本島さんの一貫した思想だった。



本島等さんが銃撃時に着ていた血染めの服を説明する平野伸人さん



最後の直筆

1988年12月7日に、「天皇の戦争責任は、あると思う」という市議会での発言をきっかけに、長崎の町は全国から押し寄せた右翼の街宣車で埋め尽くされ、車が動けないほどの状況だった。そして、約1年後の1990年1月18日に、右翼の銃撃を受けて瀕死の重傷を負った。今日は本島等さんが銃撃時に着ていた衣服を持参したので、これを皆さんに見て頂き、本島さんの遺志を引き継がなければいけないという想いを強くしたい。当時着ていたワイシャツや下着は、病院に担ぎ込まれてはさみで切られたので原型を留めていないが、銃弾の痕はこんなに小さな穴だった。公用車に乗ろうとして背後から左の胸を撃たれた。肋骨に当たって銃弾が少しそれたために一命を取りとめた。本当に運が良かった。こんなに小さな弾痕が人の命を奪い、歴史を変えていく。チョッキやネクタイ、上着もそのまま25年間保管されてきた。

銃撃事件から今年で25年目になる。本島さんは1979年から4期16年間長崎市長を務め、1995年に市長を退任した。その後は私たちと共に平和運動に関わってきた。91歳まで13年間、1月1日には長崎平和公園で座り込みを行い、最後は92歳の7月7日（盧溝橋事件の日）に公式の場でアピールした。最後まで意志の固さと運動への気力に圧倒された。「戦争はあってはならない」これが本島さんの思想だ。情に厚く、弱い立場の人を放ってはおけないというのが真骨頂だった。最後の直筆メッセージ『平和を』本島等』という言葉の肝に銘じて、私たちなりの運動を作り上げていくため、共に頑張っていきたい。



内田雅敏さん

内田雅敏さん 1990年に本島さんが銃撃されたときに、日弁連会長の抗議声明を持って長崎に行った。長崎で「テロに抗する」という集会があり、参加者と一緒に街をデモ行進した。その後の活動を通じて、本島さんが世間で言われる偉い人のイメージではなく本当に気さくな人だと知った。そんな本島さんのバトンを受け継がなければいけないと思う。「戦後責任」（岩波書店）という本の中で、市民運動というのは箱根の駅伝のようなもので、お互いに定められた区間を走っていく。ほとんどの人がゴールまで到達できないが、自分の区間を走り切って次の人にバトンを渡していくようなものだ、ということが書いてあった。去年は、土井たか子さん、本島等さん、菅原文太さんが亡くなったが、訃報を受けてそのことを思い、故人の遺志を継いで頑張っていきたい。

本島等さん、菅原文太さん

わたしたちのご遺志を引き受けます

鎌田 慧

「戦争をさせない1000人委員会」は、安倍内閣の秘密保護法制定や集団的自衛権行使の容認などの暴挙にたいして、重大な危機意識を感じ、戦争への道を阻止する決意によって、政権を揺るがす運動をつくるために、昨年3月結成されたものです。しかし、残念なことにも、一年も経たないうちに、二人の偉大な呼びかけ人を失いました。



1. 29 院内集会で思い出を語る鎌田慧さん

ひとりは、昨年10月31日、92歳で他界された本島等さんです。本島さんは長崎市長だった当時、昭和が終わりかかっていたとき、長崎市議会で、市議の質問に答えて、「天皇の責任はある、と私は思います」と率直に答えただけで、右翼に脅迫され、ついに銃撃され重傷を負わされました。わたしが、朝日新聞社の「AERA」の「現代の肖像」という人物紹介記事の取材で、長崎に伺った時、市長公舎に差出人不明で実弾が送られてきたばかりで、私服刑事たちがあわただしく、出たりはいつたりしていました。本島さんは、「それで

も地球は回っている」と冗談めかしていつていました。悲愴感はなく、淡々としていました。「発言の撤回は（政治家としての）死を意味する」とも発言していました。本島さんは、けっしてえばらない、冗談好きな庶民的な市長でしたが、天皇制への発言ばかりか、戦争、反核など平和に関する発言は鋭く、深く、つまりは右翼に狙われるほどに、筋金いりでした。取材が終わった公舎の玄関先で、わたしが靴をはいていたとき、本山さんは暗い声で「やられるかもしれない」とつぶやいたのでした。それでも、明るく振る舞っていました。そしてやられたのでした。そのあと、長崎新聞の記者に、「私はキリスト教ですから、司法の立場を尊重しながらも、できるだけ（犯人の）刑が軽くなることを望みたい」といったのでした。

もうおひとり。菅原文太さんは俳優として著名な方ですが、晩年は心の籠もった社会的発言を続けられておられました。私は三度ほど、菅原さんのラジオ番組や雑誌の対談に呼んで頂いております。昨年の東京都知事選の時には、候補者の統一問題で電話をいただき、30分以上も熱心に話されていました。原発、戦争、沖縄、農業問題など、現状を憂うお気持ちのとても強いかたでした。わたしとの『本の窓』（2014年7月号）での対談では、「選挙で超保守派層が勝って、善良なる日本国民がいつかと同じように唯々諾々とそれに従っていった結果、『みんな死んじゃったね。あるのは墓ばかりだね』とにならないようにしなければいけませんね」と語っていました。菅原さんは、ひそかな読書家でした。これから、その発信力の強さから、ますます活躍されるのを期待される方でした。この喪失の空白は大きな打撃となっています。残念です。

この先人二人の痛恨の思いを受け止め、わたしたちは、けっして日本を戦争する国、人を殺し、ひとに殺される国にしない、そのための行動を強めることを誓います。

2015年1月27日

【追悼】奥平康弘さん

「戦争をさせない 1000 人委員会」の発起人で呼びかけ人の奥平康弘さん（東京大学名誉教授・憲法学者）が、1 月 26 日に逝去されました。奥平さんは 1929 年、北海道函館市生まれで、85 歳でした。「表現の自由を求めて」（岩波書店、1999 年）、「憲法の想像力」（日本評論社、2003 年）、「集団的自衛権の何が問題か—解釈改憲批判」（岩波書店、2014 年）など多数の著書があります。今年 3 月の「1000 人委員会」発足の際に奥平さんからいただいたメッセージを再掲するとともに、心から哀悼の意を表します。

奥平康弘さん（東京大学名誉教授・憲法学者） 安倍政権が、かつてないかたちで、日本をとんでもない方向へ変えようとしています。私は「とんでもない」という言葉は好きではありませんが、使わざるを得ない状況です。ここで止めなくては、子どもたち、子孫に申し訳ないことになると思います。民主主義、立憲主義を何としても残していかななくてはなりません。その目標のために、まず私たちが立ち上がろうということで発起人となりました。全国的な運動として広がることを期待します。

（2014 年 3 月 4 日 戦争をさせない 1000 人委員会 発足集会・記者会見にて）



■幻の浅沼稻次郎レリーフ

1960 年 10 月 12 日、日比谷公会堂での立会演説会で、演説中の浅沼稻次郎社会党委員長（当時）が 17 歳の少年に刺殺された事件のレリーフが 1971 年に日比谷公会堂内に設置されましたが、その後レリーフは掲示板で覆われて公開されてきませんでした。今年は事件から 55 周年にあたるため、1 月 30 日に東京・日比谷公会堂で「浅沼稻次郎レリーフ」の見学会が行われました。戦争をさせない 1000 人委員会事務局長・内田雅敏弁護士、1000 人委員会呼びかけ人・福山真劫さん、解釈で憲法 9 条を壊すな！実行委員会の高田健さんら 8 名が参加し、これまでその存在が隠されてきたレリーフの存在を確認しました。

日比谷公会堂職員の話によると、「レリーフの上に掲示板が設置され

た正確な時期は不明だが、右翼からの抗議によって隠されるようになったのではないかと。右翼にとっても別の意味で聖地となっており、浅沼レリーフだけを一方的に設置しているのはおかしいという抗議があったのだろうと思われるが、掲示板によって隠すようになった正確な経緯は職員でもわからない」との説明でした。



レリーフには、「浅沼稻次郎は 1960 年 10 月 12 日 この公会堂のステージにおいて日米安保条約をめぐる演説中 兇刀にたおれた」と記されており、設置年月日と寄贈者名は、「1971 年 10 月 12 日 浅沼稻次郎記念碑設立会」と刻まれている（日比谷公会堂）

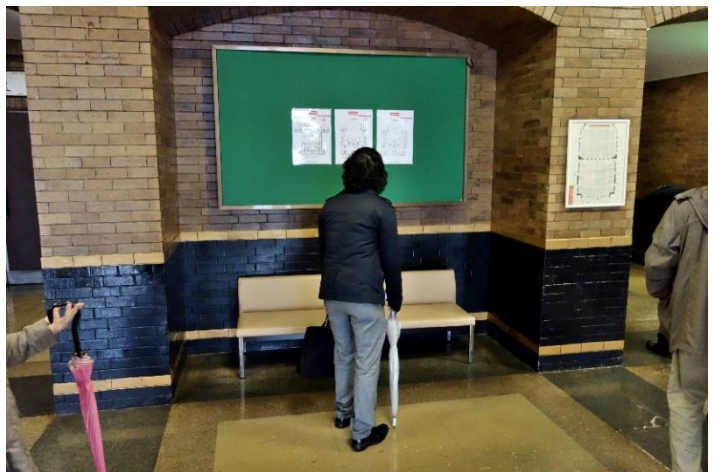


レリーフを覆う掲示板を開けたところ（日比谷公会堂）

それらをどうするか決まっていない。新たに記念館や展示コーナーを設ける案もあるが、具体的なことは何も決まっていない」ということです。参加者からは「浅沼遭難 55 周年の式典を行い、保存を求める動きを起こすべきだ」との意見が出されました。

【戦争をさせない 1000 人委員会事務局長・内田雅敏さんのコメント】

1960 年 10 月 12 日、日比谷公会堂での立会演説会で、演説中の浅沼稻次郎社会党委員長（当時）が、17 歳の少年山口二矢に刺殺された。1971 年 10 月になって、日比谷公会堂三階ロビーに浅沼遭難のレリーフが設置された。ところが、いつ頃からかレリーフの前に掲示板が設置されてレリーフを蔽うようになり、このレリーフの存在が忘れられるようになった。このことを知った私たちは、社民党関係者にも呼びかけ（誰も知らなかった）1 月 30 日、日比谷公会堂を訪れ、掲示板の鍵を外してもらい、浅沼稻次郎のレリーフを見ることができた。今年は浅沼遭難から 55 周年にあたり、このような歴史は記憶され、次世代に伝えられなくてはならない。テロに倒れた浅沼の無念さ、そして練鑑（練馬・東京少年鑑別所）で、歯磨き粉で「七生報国」と殴り書きをして自死した山口少年にも思いを馳せなければならない。山口少年が生きていれば 72 歳、春秋に富んだ人生を送ることができたかもしれない。彼を使喚（しろう）した輩、そして今なお、彼を「北極星」だと称える輩は許せない。



日比谷公会堂三階ロビーのホール入口にあるレリーフは、全体を覆う掲示板で隠されており、普段は見るできない（日比谷公会堂）

■全国のみなさんからのメッセージ

ー 戦争させない 1000 人委員会東京南部・中部旗開き

2 月 2 日、「戦争させない 1000 人委員会東京南部・中部旗開き」が大田区で開催され、60 人が参加しました。1000 人委員会東京南部ブロック（大田区・港区・品川区・目黒区）と、1000 人委員会結成準備中の東京中部ブロック（千代田区・中央区）も交流のため旗開きに有志が参加しました。東京南部の呼びかけ人・清水建夫弁護士の開会あいさつ、1000 人委員会事務局長代行・藤本泰成さんから問題提起を受けました。

折しもイスラム国による殺戮のショックと、それを奇禍とするかのような安倍首相の「テロとたたかう」発言の直後だっただけに、問題提起もあいさつも「世論」の重圧と切迫する改憲に向

き合う緊張感につつまれました。参加者のテーブルスピーチも、いよいよ勝負のときという静かな闘志を秘めた発言が続きました。

今後の行動は、各地区で駅頭宣伝などを中心として、4月に実施される自治体選挙でどれだけ戦争反対の議員を当選させるかが重要なので、旗開きの最後に1000人委員会に賛同している区議会議員候補予定者6名が登壇しアピールを行いました。藤村妙子さんの元気な閉会のあいさつで、熱気に満ちた2時間余の集いを終了しました。

1000人委員会東京南部では、2月26日に田町駅で宣伝行動を行いますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。
(1000人委員会東京南部事務局・石河)

■集会・活動スケジュール

2月17日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。詳細はホームページをご覧頂くか、事務局までお尋ねください。

2月26日(木) 18時30分～ 日米防衛ガイドライン改定絶対反対！みんなの力で戦争関連法制を阻止しよう！ 2.26院内集会

場 所：衆議院第一議員会館・大会議室

講 師：落合恵子さん(作家)、清水雅彦さん(日本体育大学教授)

3月 7日(土) 14時00分～17時00分 緊急学習会「戦争法に備えよ」※参加無料です

場 所：連合会館・大会議室(JR 御茶ノ水駅、地下鉄新御茶ノ水駅)

講 師：青井未帆さん(学習院大学教授・憲法)

福田護さん(日弁連憲法問題対策本部)

海渡雄一さん(弁護士)

藤本泰成さん(1000人委員会事務局長代行)

5月 3日(日) 13時～(予定) 平和といのちと人権を！ 5.3 憲法集会

— 戦争・原発・貧困・差別を許さない —

場 所：横浜みなとみらい臨港パーク

■リーフレット「何が問題？ 日米ガイドライン再改定と戦争法案」

日米ガイドライン改定や戦争法案について、問題のポイントをまとめたリーフレット「何が問題？ 日米ガイドライン再改定と戦争法案」を新たに作りしました。憲法学者である清水雅彦さん(日本体育大学教授)、飯島滋明さん(名古屋学院大学准教授)のおふたりに執筆していただきました。地域・職場での学習、街頭宣伝に、ぜひご活用ください。ご入用の方には、ご希望の枚数お分けいたします。たいへん恐縮ですが、送料のみご負担ください。ご注文はお送り先・お名前・必要枚数をお書き添えの上、メールまたはファックスでお願いします。

【内容】「日米ガイドライン」再改定、なにが問題？／アメリカと一緒に戦争できる国づくりへ／「日米ガイドライン」再改定の問題はなんですか？／「戦争法案」はどのような内容なのですか？／「戦争法案」の問題はなんですか？／今後、私たちは何をすべきなのでしょう？

リーフレット(カラー4つ折り)



<事務局からのお願い> 各地域で活動されている皆さんの取り組み、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきます。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。